

和水町地域おこし協力隊がお届けする「なごみ日和」では、町を元気にする活動をしている人を紹介しています。

今回は元地域おこし協力隊で、現在「歌うママ防災士」として活躍する柳原志保さんにお話を伺いました。

――防災士として全国での講演会やテレビのコメンテーターとしても活躍されていますが、8月から三加和温泉なごみ乃湯で防災講座を始められましたね。

6月からなごみ乃湯を管理している（株）丸美屋様の応援大使を務めることになり、地域の皆さんがこの温泉を「集いの場」としてもっと活用してもらえたらと思います。まずは私がその入口として毎月第二火曜日に定期的に開催することにしました。

地域おこし協力隊を卒業してもう5年たちますが、皆さんと触れ合うことで初心に戻って講座をしています。

――今後の展開や抱負を聞かせてください。

今の定期開催が地域の皆さんのニーズに合っているのかを模索中です。今後は、地区や団体向けに予約制にして防災講座をすることか、「集いの場」として恋活イベントや、子ども食堂を開催するなど、活用法をさらに考えていきたいと思っています。

息子も防災士になったので、息子と一緒にイベントも企画できたらおもしろいかなと考えています。和水町に移住して7年になりました。県外やメディアでの活動も増えているので、和水町の自称（笑）応援大使として、これから謙虚に、活動に共感してくれる人と一緒に和水町を盛り上げていきたいですね。



歌うママ やなぎはら しほ
防災士 柳原 志保 さん

しほの部屋 検索

宮城県出身。馬場区在住。

2011年東日本大震災で被災し、翌年和水町へ移住。地域おこし協力隊として3年間活動する傍ら、防災士の資格を取得し防災啓発活動を開始。

協力隊卒業後、有明広域行政事務組合 荒尾・玉名地域結婚サポートセンターに勤務。今年6月で卒業し、フリーとなる。

現在、年間100本を超える防災講演や、RKKラジオ番組「防災サロンしほの部屋」パーソナリティ他、映画出演、執筆など多方面で活躍中。



「防災サロンしほの部屋」
次回は11/12(火)
午前11時～正午開催！

すずま ゆうや
鈴木 裕也



和水町の雰囲気は僕も毎日感じています。和やかな人が多く、夕暮れの田園風景はとても癒やされる良い場所です。都会からリタイアした後、畑をしながら自然の中で暮らしたい、安心して飲める水があって野菜や果物がおいしい場所に住みたい、温泉が大好き、そんな人々からの「和水町で暮らしてみたい」という問い合わせも少なくありません。

随時、空き家バンクへ登録していただける物件を募集していますので、皆さんのご協力をよろしくお願いします。

ご不明な点、気になる点はお電話でご相談ください。

和水町まちづくり推進課 ☎ 0968・86・5721

和水町移住定住センター ☎ 0968・82・8855

未来に向かって輝け！

わが町のがんばる企業！

～ 和 水 町 企 業 等 懇 話 会 企 業 訪 問 ～

和水町企業等懇話会は、町内企業の繁栄と町の振興を目指すことを目的として設立し、現在23社の会員企業で加入、さまざまな交流活動を行っています。今回は、会員企業の三加和鉱山株式会社を訪問しました！

今回も和水の
魅力たっぷり！
とても広大な採掘現場を
取材しました！

三加和鉱山株式会社

（和水町上十町 1202 番地 1）



広大な採掘現場

品質管理を念頭に！

三加和地区の上十町の県道6号線沿いにある三加和鉱山株式会社を訪問しました！

同社では、役員を含め44人が働いています。まず会社に行ってみたことは、採石場が広大なことです。とても広いことに驚きました。

採掘現場で使用されているダンプなどの重機も大きく、中でも運搬車の車輪は、大人が手を伸ばしたくらいの直径で、大きくてびびりました。

今回、三加和鉱山株式会社の塩山管理部長と山下管理課長にお話を伺いました。

三加和鉱山株式会社が碎石の販売をしていることは皆さんご存じだと思います。

碎石は大ききでいくつも種類が分かれていますが、三加和鉱山株式会社では、用途によって砂状のものから25cm程度の商品を製造しています。大きく分けると碎石と砕砂の2種類の商品の製造に分けられ、碎石はコンクリート用碎石や

道路用碎石、砕砂はコンクリート用砕砂として主に扱っています。

砕砂は岩石を砕いて砂状にしたもので、主に生コンクリートの材料として使用され、ビル建築を始めとして、道路や橋、土木工事、いろいろなコンクリート製品など、私たちの生活に欠かせないインフラ整備に必要なものです。

出荷量、製造量は、県内有数の規模を誇り、熊本県の北部地方と福岡県の南部地方の企業の約150社と取引を行っていて、10ダンプで一日平均250台前後碎石などを運んでいるそうです。

「会社として特に気を使っていることは、碎石業として骨材のJIS認定を取得していて、品質管理を重視していることです。よい商品を企業へ届けるために取得しました。

また、一番配慮していることは環境問題です。地元住民の方には、できる限り迷惑をかけないように対応し、地元の方との信頼関係の構築に努めています。工場のプラントにはスプリンクラーが設置され、場内の散水を行うなど粉じんが飛ばないように配慮しています。それからダンプが会社から公道に出る前にタイヤ洗浄を行ったり、清掃車と散水車で公道の清掃などを行ったりしています」と語る塩山管理部長と山下管理課長。環境問題にも誠意を持って取り組んでおられることを感じました。

この他にも、緑化にも力を注いでいるとのこ



大型の運搬車（大人より大きい）



碎石の現場



プラントの一部

～きらり★輝くなごみびと～



三加和鉱山株式会社
高木 千晶さん
三加和地区出身で事務全般を担当しています。

と。「採掘が終わった場所には、盛土を行い植林を行っています。植林をすることで、採掘によって失われた自然を採掘前の自然の状態に戻すために行っています」と話す塩山管理部長と山下管理課長。

作業道路にも、松などが植林されていました。三加和鉱山株式会社では、リサイクルの受け入れを行うために産業廃棄物中間処理資格を取得されていて、再生材として利用可能な建築、土木、道路などから出る建設廃材（コンクリートがら、アスファルトがら、セメント瓦など）を受け入れ、クラッシャー（破碎）し、鉄筋など不要なものを除去し、再生材として出荷もしているとのこと。

環境に配慮した取り組みに熱心に尽力されていることが伺えました。

（取材 まちづくり推進課・居石）